

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023

【受賞者のプロフィール等】

志賀 理江子（しがりえこ）

1980年愛知県生まれ、宮城県在住。
2004年ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業。

2008年から宮城県に移り住み、その地に暮らす人々と出会いながら、人間社会と自然の関わり、死への想像力や、記憶などを題材に制作を続ける。過去と未来が断ち切られた、「永遠の現在」と呼ばれるフラッシュバック的な時空間を、写真によって可視化することを試みる作品は、鑑賞者を視覚的に没入させるだけではなく、身体的に写真空間へと引き込んでいく。

○主な展覧会

個展「ヒューマン・スプリング」(東京都写真美術館、2019)
「ビルディング・ロマンス—現代譚(ばなし)を紡ぐ」(豊田市美術館、愛知、2018)
個展「ブラインドデート」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川、2017)
個展「カナリア」(Foam写真美術館、アムステルダム、2013) など。



《人間の春・昨日と変わらない今日、今日と変わらない明日》
2019、Cタイププリント「ヒューマン・スプリング」(東京都写真美術館、2019)

竹内 公太（たけうち こうた）

1982年兵庫県生まれ、福島県在住。
2008年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。

パラレルな身体と憑依をテーマに、時間的・空間的隔たりを越えた活動を展開する。失われた歴史の痕跡を辿り、隔絶された土地で協働しながら、取材と制作・パフォーマンスが一体となった行動を元に、映像・写真を用いたインスタレーションを発表。作者自身や鑑賞者の体験を通じ、メディアと人間関係を表現する。

○主な展覧会

個展「Body is not Antibody」(SNOW Contemporary、東京、2020)
「第6回アジア・アート・ビエンナーレ」(国立台湾美術館、台中、台湾、2017)
個展「メモリー・バグ」(Arts Catalyst、ロンドン、2016) など。



《文書1: 王冠と身体》
2020、インスタレーション、紙にレーザープリント